

2024 年（令和 6 年）1 月 29 日

逗子市教育委員会

逗子市重要文化財を新たに指定しました

2024 年（令和 6 年）1 月 24 日付けで、延命寺の けんぼんちやくしよく 絹本著色 ぶつねほんず 仏涅槃図を
市重要文化財に指定しました。

●市重要文化財とは

逗子市では、市内の文化財のうち、学術的に価値が高いものを重要文化財に指定しています。これまでに仏像や建物など 21 件を指定し保護を図ってきました。その内訳は、建造物 3 件、彫刻 8 件、工芸 2 件、考古資料 1 件、史跡 5 件、天然記念物 2 件です。

●新指定文化財の概要

新指定文化財は逗子 3 丁目の延命寺が所有する仏涅槃図で、分類は絵画、時代は室町時代です。これにより、市重要文化財は 22 件となりました。

●どんな特徴、価値があるのか

仏涅槃図とは釈迦の にゅうめつ 入滅を描いた仏画で、中央に さらかうじゆ 沙羅双樹の下に横たわる釈迦の姿を、その周囲には集まった弟子や民衆、動物たちを描いています。本図は、細部の画風などの特徴から、15 世紀前半に製作されたものと考えられますが、神奈川県内においても中世（鎌倉～室町時代）までさかのぼる仏涅槃図は数点しか知られておらず、また後世の大きな補修がほとんどなく元の姿をそのままに伝えているなど、文化財的価値は極めて高いと考えられます。

●延命寺とは

延命寺は高野山真言宗。逗子大師とも呼ばれ、奈良時代の天平年中（729-749 年）に ぎようき 行基菩薩が開創したと伝える古刹です。

●いつ拝観できるのか

釈迦が亡くなった日に行われる ねはんえ 涅槃会の際、本堂内に掲げられます（令和 6 年 2 月 15 日（木）午後 1 時 30 分～3 時）。それ以外の日に拝観することはできませんのでご注意ください。

【付属資料】

資料 1：逗子市内所在指定文化財等一覧

資料 2：指定理由書

本件に関するお問い合わせ先

教育部 社会教育課 佐藤・吉田

電話：046-873-1111 内線 520

逗子市内所在指定文化財等一覧

神奈川県逗子市

国指定（4件）

件名	種別	指定年月日	所有者・管理者	所在地	備考
五輪塔（石造 乾元二年銘）	建造物	昭和28年8月29日	東昌寺	池子2丁目	
名越切通	史跡	昭和41年4月11日	市・民有地	小坪7丁目、久木9丁目	鎌倉市にまたがる
和賀江嶋	史跡	昭和43年10月14日	官有地	小坪5丁目	鎌倉市にまたがる
長柄桜山古墳群	史跡	平成14年12月19日	市有地	桜山7丁目・同8丁目	葉山町にまたがる

県指定（8件）

件名	種別	指定年月日	所有者・管理者	所在地	備考
神武寺薬師堂 附 棟札	建造物	昭和60年11月29日	神武寺	沼間2丁目	
絹本著色 大威徳明王像	絵画	昭和29年3月30日	神武寺	沼間2丁目	
絹本著色 千手観音像	絵画	昭和29年3月30日	神武寺	沼間2丁目	
木造阿弥陀如来立像	彫刻	昭和56年7月17日	光照寺	沼間2丁目	
銅 鐘（応永十年銘）	工芸	昭和44年12月2日	海宝院	沼間2丁目	
五霊神社の大イチョウとその周辺の樹木	天然記念物	昭和42年7月21日	五霊神社	沼間3丁目	
鐙摺の不整合を示す露頭	天然記念物	昭和52年5月20日	逗子市	桜山9丁目	
逗子市池子遺跡群出土品	考古資料	平成14年2月12日	逗子市	池子（逗子市池子遺跡群資料館）	

市指定（22件）

件名	種別	指定年月日	所有者・管理者	所在地	備考
観音堂	建造物	昭和46年12月23日	岩殿寺	久木5丁目	
四脚門	建造物	昭和48年1月26日	海宝院	沼間2丁目	
神輿	建造物	令和3年9月21日	神明社	池子2丁目	
絹本著色 仏涅槃図	絵画	令和6年1月24日	延命寺	逗子3丁目	
木造不動明王立像	彫刻	昭和45年5月1日	神武寺	沼間2丁目	
木造薬師如来坐像及び日光・月光菩薩立像	彫刻	昭和45年5月1日	神武寺	沼間2丁目	
木造阿弥陀如来坐像	彫刻	昭和46年12月23日	東昌寺	池子2丁目	
木造阿弥陀三尊立像	彫刻	昭和47年7月28日	海前寺	小坪5丁目	

件名	種別	指定年月日	所有者・管理者	所在地	備考
木造阿弥陀如来立像	彫刻	昭和47年7月28日	仏乗院	小坪4丁目	
銅造阿弥陀三尊像	彫刻	昭和48年1月26日	延命寺	逗子3丁目	
木造十王及び奪衣婆坐像	彫刻	昭和48年1月26日	宗泰寺	桜山7丁目	
木造十一面観音菩薩坐像	彫刻	昭和49年12月18日	海宝院	沼間2丁目	
緑釉唐草文瓶ほか一括	工芸	昭和49年12月18日	神武寺	沼間2丁目	
菊座鈕小松流水文双雀鏡 菊座鈕小松散文双雀鏡ほか硯二面	工芸	昭和49年12月18日	個人	桜山8丁目	
こんぴら山やぐら群	史跡	昭和45年5月1日	神武寺	沼間2丁目	
みろくやぐら	史跡	昭和45年5月1日	神武寺	沼間2丁目	
先祖やぐら横穴	史跡	昭和46年12月23日	個人	沼間2丁目	
山の根谷装飾横穴	史跡	昭和47年8月18日	個人	山の根2丁目	
六代御前の墓伝説地	史跡	昭和53年2月21日	六代御前史跡保存会	桜山8丁目	
「燈摺不整合」の露頭	天然記念物	昭和47年7月28日	逗子市	桜山9丁目	
神武寺の岩隙植物群落	天然記念物	平成5年5月12日	神武寺	沼間2丁目	
持田遺跡出土の石製装身具及び玉作 関係資料	考古資料	平成30年2月23日	逗子市	池子（逗子市池子遺跡群 資料館）	

国登録有形文化財（8件）

件名	構造・形式	登録年月日	所有者・管理者	所在地	備考
長島孝一家住宅主屋	木造平屋建、 瓦葺、181㎡	平成13年8月28日	個人	新宿1丁目	明治33年頃
旧脇村家住宅主屋	木造二階建、 瓦葺、247㎡	平成22年4月28日	逗子市	桜山8丁目	昭和9年
旧正力家別邸主屋	木造二階建 瓦葺、200㎡	令和4年2月17日	個人	新宿3丁目	昭和前期
旧正力家別邸蔵	RC造二階建 瓦葺、24㎡	令和4年2月17日	個人	新宿3丁目	昭和34年
旧正力家別邸表門	木造、銅板葺 間口1.8m	令和4年2月17日	個人	新宿3丁目	昭和中期
須藤家住宅主屋	木造二階建 スレート葺 138㎡	令和4年2月17日	個人	新宿2丁目	昭和7年
須藤家住宅旧ボイラー室	木造平屋建 鉄板葺、8.8㎡	令和4年2月17日	個人	新宿2丁目	昭和21年頃
旧本多家住宅主屋	木造二階建 スレート葺 216㎡	令和4年10月31日	株式会社久米設計	山の根2丁目	昭和13年

令和6年1月現在

指定理由書

名 称	絹本著色仏涅槃図 一幅
種 別	有形文化財（絵画）
時 代	室町時代（15世紀）
法 量	縦143.0センチメートル、横124.8センチメートル
所在地	逗子3丁目1番17号
所有者	宗教法人 延命寺

涅槃図は釈迦の入滅を描いたもので、その忌日である2月15日の涅槃会には、宗派を超えて法要が営まれた。このため遺品は多く、数メートルの大幅から中、小型の作例のものまでであるが、本図は中幅の作例である。縦長の形態も中世の涅槃図に通例のものである。

図様も鎌倉期に定型化を見た、通例の図様にのっとり、中央には沙羅双樹の下での釈迦の涅槃の姿を描き、それを聞いて集まった菩薩や天部や明王などの尊像、さらにその周囲には諸侯、貴族や民衆、そして最下部に動物たちの姿を描く。

このように本図は中世前期の鎌倉、南北朝期の確固とした涅槃図の構図を堅持しながらも、細部の人物などに丸く柔らかい描線を用い、それは謹直で力強い中世前期の描線とは異なるものとなっている。また人物も崇厳な表情が緩和され、菩薩や天女などには世俗的な人間臭い表現が見られる。用いられた絹地も織りが粗く、これは目が摘んだ鎌倉時代の画絹とは大いに異なるものである。

本図の持つこのような特性には、中世前期の画風を残しながら、新時代の様式の芽生えが指摘できることから、その制作は室町期、15世紀前半にあたとみなされる。

涅槃図は保存が完好でないものが多く、本図も絹地のたわみが目立ち、彩色の剥落が目立つものの、後世の補絹などがほとんどなく、原像をそのままに伝えていることは貴重である。なお釈迦の体部の金泥彩色は後補のものだが、釈迦だけを彩色しなおし補修することは、涅槃図によく行われることであり、必ずしも本図の文化財的な価値を損じるものではない。

神奈川県下に中世までさかのぼる涅槃図は少なく、鎌倉・円覚寺本（鎌倉時代）、鎌倉・宝戒寺本（南北朝時代）、横浜・稱名寺本（南北朝時代）、横浜・宝生寺本（南北朝時代）、小田原・総世寺本（室町時代）等が知られるのみであり、文化財的価値は極めて高い。

なお、本図の伝来についても、少しく事情が判明することは貴重である。本図は現在額装だが、裏面右端に貼付されている元の巻止紙及び旧来の箱板等に次のような記載がある。

〔元 巻止紙〕

「 再補 天保十一子二月日 □□□□代
唐画 涅槃像 一幅 天正十一未年五月吉日 前當國太守毛利輝元公御家臣當所御出張御
奉行村上右衛門尉助康寄□(進)之 」

〔箱蓋板 表〕

「涅槃像 廣嶋縣沼隈郡鞆町鞆地藏院 昭和八癸酉年二月十五日 贈呈 山川得仁
護持者 阪口本瑞 』

〔納入板一旧箱蓋板 表〕

「涅槃會 鶴淋山 十輪寺 地藏院 常在」

〔納入板一旧箱蓋板 裏〕

「再補 天保十一年子二月吉祥天 筆者年代不詳」

〔納入板一旧箱底板 内側〕

「天正十一年卯五月寄附者 毛利輝元公御家臣鞆御出張御奉行村上右衛門尉助康殿」

異筆や欠損により不詳な部分もあるが、元は天正11年（1583年）、備後国鞆地藏院に村上助康（亮康、因島村上氏、鞆大可島城主）が施入したものとされ、近世の修補を経て、昭和8年（1933年）延命寺に寄せられたという伝来が知られる。

